

# 平成27年度第2回 鳥取県西部地区中学校学びの共同体研究会 実施レポート

期日 平成27年1月13日(金)

会場 境港市立第一中学校

## ◎ 研究テーマ 「学びの共同体」(協同的な学び)の理論と実践

### 1. 公開授業(9:50～11:30) および指導助言(11:40～12:30)

#### (1) 2年理科「電流と磁界」

授業の初めに前時の復習をしていたが、本時の授業と直接関係のない内容であったため、不要であった。復習よりも生徒の意欲があるうちに早く本時の学習活動に入るのがよい。本時と関連のある事柄であっても最小限の復習にとどめる。本時の課題に取り組みながら、生徒は前時の内容を思い出すものである。教師いきなり質問されても、生徒は瞬時に思い出せないものである。課題の提示はよかった。なぜ学ばなければならないかということ、生活と関連づけていたのがよかった。実験に入ったとき、生徒たちが悩みながらも自力解決しているのがよかった。実験に対する姿勢が育っている。ただ、実験に入る前が長かったので、ワークシートに実験の手順や図などを載せておき、生徒はそれを見ながら実験ができるようにしておくといよい。そのほうが学び合いになるし、生徒の主体性も育つ。教師の説明は極力短くし、早く活動に入る。活動時間は、初めから時間設定をするのではなく、生徒の活動の様子を見て判断する。

#### (2) 1年数学「比例」

課題提示のときに「これは小学生レベルの問題」などとは言わない。生徒にとっておもしろくない課題となってしまうし、もしできなかった場合、気落ちしてしまう。むしろ「これは難しい問題。解けたらすごい！」と言ったほうが、やる気が出てくる。課題に取り組み始めたとき、生徒たちは班の隊形であったにもかかわらず、静かに集中していたよよかった。「最初は一人で考え、わからなければ聞く」ということができている。グループになってすぐに話し合うと考えなくなってしまう。挙手で発表させていたが、指名のほうがよい。教師ががんばらせたいと思っている生徒やさぼっている生徒など、いろいろな生徒を指名していく。教師の説明ではなく、生徒を前に出させて説明させていたのはよよかった。途中で困ったときもあきらめさせず、他の生徒たちの援助を受けながら最後まで説明させていたよよかった。教師の立ち位置もよく、教師と生徒の1対1の対話になっていなかった。班の活動のとき、教師は生徒に直接教えるようなかわり方をしない。「わからなかったら班の人に聞いてごらん」と声かけをし、生徒同士をつなぐようにする。

### 2. 研究授業(13:45～14:45)

#### 1年社会「朝廷と結びつく武士」(授業デザインは別紙)

授業参観の視点……「学びの共同体」(協同的な学び)の理論・方法を取り入れ、かかわり合い学び合う

活動を通して、「よりよく学び、確かな学力を育む生徒の育成」をめざした学習活動の展開

①生徒が主体的に学び(よりよく学び)、学習(教科)のねらいを達成する(確かな学力を育む)ための「学ぶ値打ちのある課題」となっているか。

- ・「共有の課題」(基礎・基本、知識・理解・技能)
- ・「ジャンプ課題」(応用・発展、技能、思考・判断・表現力)

②個々の生徒の学びや、生徒同士のかかわり合い学び合い(班・全体)が成立していたか。

- ・「共有の課題」における班活動(個人作業の協同化…わからないときに聞く)
- ・「ジャンプ課題」における班活動(他者の意見を聞き、自分の考えを深め広げる)
- ・全体学習(対面)……表現の共有(聴き合い、生徒の意見をつなぐ)

### 3. 研究協議 (15:10 ~ 16:00)

授業者の自評……今回の授業では、資料を4種類用意しなければならず、選ぶのにかなり悩んだが、生徒たちの資料への食いつきはよかったと思う。最初の説明は少ししゃべりすぎたかなと思う。班活動に入ったとき、意味のない机間指導をしてしまった。1人取り残されている生徒がいて、声かけをしたが、資料や班の生徒とのつなげることができなかった。

授業観察者(各班)の報告……6つの学習班に1人ずつ教員がつき、個々の学びや生徒同士のかかわり合い学び合いができていたかどうか観察し、報告した。

グループ討議……参加職員が4人グループに分かれて、授業参観の視点について協議した。

### 4. 指導助言および講義 (16:00 ~ 17:00)

講師 学びの共同体研究会 スーパーバイザー(元東大阪市立金岡中学校長) 馬場宏明先生

#### ○アクティブラーニング

受動的な学習から能動的な学習に転換する。つまり、教師が説明する授業から生徒に学び取らせる授業に変える。創造的、協同的、技能労働者を育てる。

#### ○グループ学習

- ・班学習と呼ばれる「集団学習」……班長がいて、班競争がある。いじめを生む。
- ・協力学習という「話し合い学習」……ゲーム性のある課題。
- ・協同的な学びである「学び合い学習」…未知なものを課題にして挑戦させて学力をつける。  
グループに民主的な関係(平等)があつてこそ、学び合いができる。

#### ○学習課題

歴史学習で「なぜ？」を問うのは力がつかない。「～たら」「～れば」という答えは、思いつきになってしまう。そうではなく、根拠をもとに原因を考えさせる。わからないときにテキストに戻る課題にする。社会科の場合、共有課題は教科書の見開き2ページを30分でできる。そうするとジャンプ課題に20分間取り組むことができる。

#### ○自力解決

共有課題はグループにはなるが、基本は自力解決。わからないときに聞く。

1人残らず参加。だれも独りにしない。「わからない」「教えて」の二語。安心できている。夢中になっている。「学び」と「学び合い」がある。

#### ○ジャンプ課題

ジャンプ課題は原因を探る課題とする。1人ではできないが、協同ならできる課題。ジャンプ課題は、毎時間設定するのがよい。難しいことをすることによって学力は上がる。学力は下から押し上げられるものではなく、上から引き揚げられるものである。挑戦させることが大事。背伸びが学力になる。

#### ○教師の役割

生徒の発言をしっかりと丁寧に聴く。生徒の発言を他の生徒たちにつなぐ。生徒が困ったらテキストやグループにもどす。より深い学びになるようにつつこむ。

#### ○ジグソー法

4種類の資料を班の4人がそれぞれ分担していたが、この方法には課題がある。資料を1人で読み取ることが難しく、苦しんでいた生徒がいた。班の中で相談できないので思考停止になってしまう。また、読み取っても伝えることが苦しい生徒もいた。4つの資料が手元があれば課題解決できた生徒やさらに深い思考につなげた生徒もいたと思われる。伝え合いや話し合いは学び合いではなく、学び合いを生み出すことが大切である。